

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036	事業の開始年月日	2011年7月1日	
		指定年月日	2011年7月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名：かもめ			
所在地	(〒 981-0212) 宮城県宮城郡松島町磯崎字長田 8 0 - 2 2 2			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年1月22日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い中庭があり、季節に合わせた畑作業や散歩等、活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。
ユニット理念に掲げているように、常に笑いのあるゆっくりとした生活の場を提供できるよう、入居者様とスタッフが一緒に過ごす空間の目指しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月26日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 法人の運営理念のもとユニットごとの介護理念 〈かもめユニット〉 「急がず、楽しく、笑って毎日過ごしましょう」 〈ちどりユニット〉 「安心してください。私達がそばにいます。」</p> <p>【事業所の概要】 母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人の「コスモスケア株式会社」は、地域に貢献する総合福祉サービスを松島町と仙台市内を中心に提供している。「グループホームコスモス松島」は2011年7月に、松島から奥松島に向かう奥松島パークライン沿いの住宅地に開設し、平屋建ての2ユニットで運営している。隣には同法人の小規模多機型居宅介護事業所「はまゆう」がある。近くには病院、郵便局、神社などがあり、海岸からも近い。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 職員は毎年ユニット毎に理念の見直しを行い、2023年度は入居者が安心して笑顔で過ごせるように、常に入居者とともに生活していることを意識した内容に見直した。以前からこの地域で生活していた入居者が多く、ホームが馴染みの場所にあることで、地域住民や町内会とも継続した関係性がある。今年度は久しぶりにホームの夏祭りを再開し、ボランティアや地域住民など、多数の参加があり交流を深めることができた。また、地域住民から正月飾りにと門松の材料を頂いたり、庭の柿を収穫させてもらい入居者が干し柿作りをしている。毎月開催している「コスモスカフェ」には、地域の参加者が多く、ホーム職員が講話を行ったり、入居者も作品作りをして楽しんでいる。昨年からは看護師が常勤となり毎日の体調管理や状態に合わせ通院に同行している。また、働くための職場環境整備が進んでおり、勤務年数が長い職員が多く、入居者は安心して暮らしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームコスモス松島
ユニット名	かもめ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松島）「ユニット名:かもめ」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼時間等勤務職員が集い都度確認し合っている。日々のサービス提供に際し新人からベテラン職員まで理念を意識した支援に努めている。	ユニット理念は年度末にケアを振り返りながら、職員で話し合っている。スタッフルームに法人理念とともに掲示し、毎日の昼礼時に唱和することで意識づけを行い、理念を実践に活かせるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の皆さんに開かれた施設である為に現在では毎月認知症カフェを開催、また施設開催の夏祭りでは地域住民の皆様にも参加して頂き交流を深める活動を行っている。	町内会に加入し、地域の奉仕活動には職員が参加している。掲示板で地域に向けて情報を発信している。ホームの夏祭りには地域住民や高校生のボランティアの参加があり、よさこいやフラダンスなどで盛り上がった。参加希望者が多く、申し込みの半数をお断りする程であった。地域住民を対象にした「コスモスカフェ」も昨年夏から再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町役場からの依頼で近隣の小学校等で認知症サポーター養成講座を実施、認知症高齢者の理解や認知症についての啓発活動を行っている。また認知症カフェにおいても参加者に対し認知症になっても安心して暮らせるサポートが有る事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の内容について施設内での情報共有に努めているが、会議での内容が現場で反映されるまで時間が掛かる事もあり、情報共有の方法や取組みに至るまでの時間短縮に努めたい。	メンバーは町内会長、区長、地域包括職員、社協職員、町職員で隣の同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。メンバーからは「コスモスカフェ」の運営などについて活発に意見が出されている。昨年の運営推進会議では避難訓練の様子をメンバーに見てもらい感想をもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは定期的に連絡を取り実践できていると感じている。	地域包括職員、社協職員とは運営推進会議以外にもコロナ対策などの情報を共有し、連携を図っている。保護課とは介護計画作成時などに相談している。高齢支援課には毎週顔を出すなど、相談しやすい関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員個々の理解度に差はあるが、施設として周知徹底する為に施設内入口に取り組み内容を掲示すると共に定期的な勉強を繰り返し理解の均一化と実践に努めている。	身体拘束の適正化等の指針があり、玄関に掲示している。委員会は3ヶ月に1回開催し、「検討シート」を用い不適切なケアや言葉遣いの事例検討を行い、定例会で職員に周知している。玄関は防犯上センサーを設置し、施錠は21時から翌6時までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の権利擁護、尊厳の保持に努め定期的に勉強会を開催すると共に、日頃から職員同士で声掛けを行い不適切なケアから虐待へと発展しない職場環境作りに努めている。	定期的に虐待防止の研修を行っている。研修では虐待防止マニュアルで再確認したり、ヒヤリハットの事例検討を行っている。職員の声かけなどで気になった時は、その場で管理者が指導したり職員同士でも互いに注意し合える関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会の開催を実施し周知に努めているが、職員の理解にはバラつきがあるので、今後も継続して勉強会や外部研修を利用し職員全体の理解度を上げるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除についてはご家族様に同席を頂き説明の場を設けている。又、契約に変更等が発生した場合も都度文書にて通知を行い、不明な点があれば連絡をいただき説明を行う事で、理解・納得頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に現状報告、その上で意見や要望を都度うかがっている。ケアに変更があれば、計画作成担当者より家族様へ電話連絡を行ない意見を伺っている。計画作成担当者は報告後、管理者・ユニット職員へも報告し周知、反映を行っている。	家族には、毎月「コスモス松島通信」を発行し、入居者の様子や職員紹介を写真入りで報告している。面会は予約制で陰圧室で行っている。予約なしの来訪にもテラスに席を設けるなど、面会できるよう取り組み、喜ばれている。計画作成担当者は、ケアプラン作成時に入居者の体調に変化等があれば家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を実施し、運営について職員から意見を頂いている。頂いた意見を素早く反映出来るよう、定例会の場だけでなく日常的に管理者、副管理者、リーダー、各職員間でコミュニケーションを図り、意見の抽出・反映に努めている。	毎月、役員や所長が参加する定例会で、管理者が職員から集約した意見や要望を議題にし検討している。昨年導入した「週休3日制」について問題点がないかなど、検討し改善に繋げている。年2回、職員面談を行っており、振り返りやキャリアパスに沿って本人の希望を聞き、目標設定し人材育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内でのキャリアパス制度や、外部や内部研修を行う事で必要な知識の習得や向上心を持って働ける環境作りに努めている。又週休三日制の導入等、働き方改革、働く人のライフワークバランスにも配慮した取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が個人目標の設定を行い且つ個人面談を行い職員の技量等の把握に努めている。また研修参加を奨励し、研修参加費の一部負担を実施、勤務調整を行う事で、より研修に参加しやすい環境を整えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加を奨励し同業者との「横の繋がり」にも配慮している。また内務研修においても、社内の他事業所との交流を行い、自身が提供するサービスの振り返りを行える環境を整えサービス向上に努めている。	町の地域包括ケア会議にはリモートで参加し情報交流している。隣接する同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で研修を行っている。地域の他事業所のグループホームとも交流をしている。かかりつけの診療所医師から認知症の初期集中支援についてなど、話を聞く機会を設けている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査に加え入所に際し改めて本人様並びに家族様へもヒアリングを行い要望等の把握、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて家族様の希望等ヒアリングを行っている。入所されてからも適宜連絡を取り家族様の要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査では把握できなかった部分に関しても、入所された本人様の状態を改めて確認し、適切なサービスを提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ににとって満足の高い生活を目指し本人様の訴えを傾聴し、職員間でその情報をケアカルテや業務日誌で共有、支援に活かせるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や定期的に本人様の様子を家族様へ手紙として届けている。それ以外でも必要と感じた時には連絡を取り情報共有を行いながら共に本人様を支える関係構築に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に家族の写真や思い出の物を置く等の環境整備を行うと共に、外出の機会を設け、馴染みの場所へ足を運んだり、面会を通して友人に会える機会を設ける等の支援に努めている。	近隣からの入居者が多く、馴染みの店に買い物に行ったり、通院時には友人と挨拶を交わしている。初詣には近くの神社に参拝に行くなど、入居前の習慣が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係を深められるように共通のレクリエーションの提供やおやつ時間スタッフも一緒に利用者様の輪に入り会話を取り持つ等の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後でも、家族様からの相談には都度対応している。また認知症カフェへの参加を呼び掛ける等、サービス終了後であっても関係性の維持・継続に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には希望を伺い出来るだけ希望に添えるよう支援を心掛けている。また意思疎通が難しい方についても、生活歴や家族様へ話を伺いながら職員間で検証・共有し、今の本人様が必要としている支援を提供できるよう努めている。	リビングでテレビを見ながら、居室で衣替えや掃除しながらなど、職員と共に過ごす会話の中から思いを把握するよう努めている。深夜に起きてきて職員と談話をする入居者もいる。職員はそうして得た情報を記録に残し、共有している。思いや意向の把握が困難な入居者からは、今までの生活歴や家族から得た情報を参考にしている。また、日々の何気ない動作や仕草からも思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や本人様、家族様へヒヤリングを行いこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからの様子観察を日々職員間で共有し、実態調査等での情報と実生活での情報とのすり合わせを行い出来る事出来ない事、本人様の想いも加味しながら現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の状態については職員間で日々業務日誌やケアカルテを用いて情報の共有を行いながら、必要と考えられる支援を適宜各職員が提案し実践を行っている。かかりつけ医や家族様からの情報も踏まえ、今必要な支援を本人様へ提供出来る様な介護計画の作成に努めている。	毎月、サービス内容や本人の状態変化などについて評価を行っている。介護計画作成時には家族や医師、常勤の看護師からの意見も反映させている。家族には面会時や電話で説明し、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個々の日々の出来事は業務日誌、ケアカルテを使用し記録を行い職員間で情報共有を行っている。また集まった情報から新たな気づきや振り返りを行い介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様個々の通院や買い物支援は行っているが、施設に居る事で出来る事を増やすべく、職員間でも日々模索している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり地域の皆様との交流も不足していたが、今後は積極的に関りを増やし、入居者様やスタッフも地域資源として活躍できる場を見つけていきたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の受診については本人様、家族様に納得を頂いた上で受診している。また入居前からのかかりつけ医、入所されて新たなかかりつけ医となる医療機関についても、信頼関係構築に努め、本人様の状態にあって医療が受けられるように努めている。	希望するかかりつけ医を受診することができるが、協力医療機関をかかりつけ医とする人が多く、月2回の訪問診療を受けている。内科以外の通院は常勤の看護師や職員が同行している。受診後は家族に連絡し、受診結果を説明している。介護計画更新時の通院には計画作成担当者も同行している。歯科は受診が必要な時に訪問してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在籍しているので入居者様の日々の状態観察、バイタル測定等での体調変化を感じる場合から、些細なことでも報告相談している。その結果から通院に繋がるケースもあるので今後も継続して協働に努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した場合には介護サマリーを使用し病院側へ本人様に関する情報提供を行っている。また病院の医療連携室とも情報共有を行い必要な連携が図れるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設において終末期ケアの提供は行っていない為その前段階である重度化された場合であっても、本人様の希望、家族様の希望を伺いながら施設として出来る事、出来ないことを説明し対応にあたっている。どの様な場合でも施設として寄り添い支援できることに注力している。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に説明し、現在は看取りを行っていないことや、ホームでできることを伝えている。重度化した時は医師から家族に説明があり、入院や他の施設への入所について選択肢を示し、相談しながら連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で知識や対応力にばらつきが出ない様定期的な勉強会の開催や緊急対応時のマニュアルを整備を行い備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い緊急時の対応の周知に努めている。地域での役割を考え運営推進会議等で地域の皆様から頂いた御意見を基に協力体制の構築に努めている。	火災、風水害、地震、津波災害マニュアルが作成されている。ハザードマップも掲示されている。年2回、避難訓練を実施し内1回は夜間想定で行っている。災害時は隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の2階に垂直避難し、非常食や備品も3日分保管されている。設備点検は、年2回業者が行っている。新型コロナウイルス感染症予防対策として職員は出勤前に抗原検査を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識しているが、気を付けるべき点はあるので職員間で連携し不適切な声掛けをしないよう今後も継続していく。	接遇、プライバシー保護の研修を行っている。トイレへの誘導時は羞恥心に配慮し小声でさりげなく行い、居室へ入室する時はノックと声がけで確認している。基本、呼び名は苗字か名前に「さん」を付けて呼んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様からの訴えについて些細なことでも職員間で共有し自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態を職員間で共有し無理のないよう様子を見ながら支援の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の行う整容介助に加え、爪切りも定期的に行なっている。また家族様からのプレゼント（アクセサリや衣服）を着用し写真を撮る等、生活に彩りを加えられるように努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食やレクリエーション活動で食事を楽しめる機会を作り提供している。本人様の状態に合わせ自助具を使用し自力摂取出来るよう支援を行っている。また入居者様に皿と一緒に拭いて頂く等の取り組みも行っている。	朝食の他、毎食のご飯、みそ汁はホームで手作りし、おかずは業者のチルド食を利用している。入居者には野菜を切るなどの下ごしらえや皿拭きなど、できることを職員と一緒にしている。節分には恵方巻と一緒に手作りし、みんなで楽しんだ。夏野菜を育て収穫後には、食材に取り入れれたり漬物にしており、入居者には好評である。大みそかにはお寿司を提供したり、正月にはお餅風の介護食でお雑煮を提供し気分を味わってもらった。誕生日にはリクエストに応えた食事を用意し、ケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の能力に合わせ食べるための自助具を使用したり、食材をカットする等摂取しやすい形状や仕様を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ない、常に心掛け実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの理解までには至っていないが、訴えのある方には訴え時、訴えの無い方についても定時の排泄支援を行っている。トイレ誘導の方については、出来る事は出来るだけ御自身で行っていただき、行き過ぎた支援を行わないように努めている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの状態やタイミングを見ながら声がけや誘導し、トイレで排泄できるようにしている。夜間は睡眠を重視し、無理に起こさず大きめのパッドや状態に合わせて支援している。便秘対策としては水分量をチェックし、水分補給の声がけをしている。看護師に相談し、医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前の軽い体操や水分摂取を促すなど日常的に取り組んでいる。水分の摂取量に関しても都度記録を行い一日の摂取量の把握をおこなう等、便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の勤務数等に影響されやすい支援の為、本人様の希望する時間に充分対応できていない部分もあると感じている。しかしながら気持ちよく入浴して頂く為に整理整頓や環境整備に注力し、入って良かった、気持ち良かったと言っていただける様な入浴支援を行っている。	基本は週2・3回、入浴支援をしている。湯温も一人ひとりの好みに合わせ、入浴剤や近隣住民から届く柚子などで柚子湯を楽しんだりしている。入居者の状態に応じて危険のないよう、リフト浴やシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。日々の本人様の様子を確認しながら職員間で状態を把握し些細なことでも申し送り等で情報共有を行い、穏やかな時間を過ごせる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設での服薬についてはすべて職員側が管理しており、定期薬の内容についても確認を行っている。定期薬以外でも処方された薬については職員間で申し送り情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみごとの提供を目指してはいるが、充分ではないと感じている。今後も入居者様の趣向やニーズの抽出に務め、QOL向上に繋がるように取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出する事が困難な期間があったが、コロナウイルスが5類へ移行したことを受け、対面での面会を順次再開している。また施設内の屋外テラスを利用し日常的に外の空気を感じていただいているが、今後は外出レクリエーションを再開させることで、外出の機会を増やし、日常的な外出支援へと繋げていきたい。	コロナ等感染症予防対策で計画通りの外出ができていない。天気の良い日は、車いすの人も近くを散歩したり、ウッドデッキやベンチに座って、ひなたぼっこを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の状態にもよるが、金銭管理は家族様了解のもとで施設職員が行っている。しかし本人様より日用品等の購入希望があれば内容及び金額によって、お預かりしている金銭から自由に購入する事ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への連絡や友人への連絡等、関係性を家族へも確認を行い、可能な限り本人様の希望に添える様に支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に関しては整理整頓を心掛け清潔で使い勝手の良さを心がけている。また壁にはイベントごとの写真や季節の飾り付けを行い季節感の演出に努めている。	リビングは整理整頓されており、時計、日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けられている。壁には季節の飾り付けやイベントの写真が掲示されている。食事のメニューを職員がボードに書いており、入居者は楽しみにしている。リビングから出入りできるウッドデッキがあり、ひなたぼっこができる。小上がりの上がり口に座って休む人もいる。温・湿度は職員が管理し、換気は午前と午後に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者様に合った過ごし方を提供出来ているかは常に意識する部分ではあるが、余暇内容等改善できる部分はあると感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の生活歴を考慮した居室作りを心掛けてはいるが、本人様にとって居心地の良い場所になっているかは改善の余地があると感じている。	エアコン、ベッド、クローゼット、カーテンが設置されている。ベッドの位置は本人の動線や希望で配置している。自宅からはテレビ、テーブル、椅子など馴染みのものが持ち込まれている。壁には家族の写真などが飾られている。居室担当者と一緒に衣替えや掃除をする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表を作る等し出来るだけ本人様の残存機能を活かし生活できるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036	事業の開始年月日	2011年7月1日	
		指定年月日	2011年7月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名：ちどり			
所在地	(〒 981-0212) 宮城県宮城郡松島町磯崎字長田 8 0 - 2 2 2			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年1月22日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い中庭があり、季節に合わせた畑作業や散歩等、活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。ユニット理念にもある、職員が常に近くで、入居者様と一緒に生活を送っているというイメージを大切に、ごく当たり前の生活(行事、地域活動や施設内清掃等)を可能な限り施設に入所しながらでも送れるように取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月26日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

法人の運営理念のもとユニットごとの介護理念
 <かもめユニット> 「急がず、楽しく、笑って毎日過ごしましょう」
 <ちどりユニット> 「安心してください。私達がそばにいます。」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人の「コスモスケア株式会社」は、地域に貢献する総合福祉サービスを松島町と仙台市内を中心に提供している。「グループホームコスモス松島」は2011年7月に、松島から奥松島に向かう奥松島パークライン沿いの住宅地に開設し、平屋建ての2ユニットで運営している。隣には同法人の小規模多機能型居宅介護事業所「はまゆう」がある。近くには病院、郵便局、神社などがあり、海岸からも近い。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は毎年ユニット毎に理念の見直しを行い、2023年度は入居者が安心して笑顔で過ごせるように、常に入居者とともに生活していることを意識した内容に見直した。以前からこの地域で生活していた入居者が多く、ホームが馴染みの場所にあることで、地域住民や町内会とも継続した関係性がある。今年度は久しぶりにホームの夏祭りを再開し、ボランティアや地域住民など、多数の参加があり交流を深めることができた。また、地域住民から正月飾りにと門松の材料を頂いたり、庭の柿を収穫させてもらい入居者が干し柿作りをしている。毎月開催している「コスモスカフェ」には、地域の参加者が多く、ホーム職員が講話を行ったり、入居者も作品作りをして楽しんでいる。昨年からは看護師が常勤となり毎日の体調管理や状態に合わせ通院に同行している。また、働くための職場環境整備が進んでおり、勤務年数が長い職員が多く、入居者は安心して暮らしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームコスモス松島
ユニット名	ちどり

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松島）「ユニット名:ちどり」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の昼礼にて法人の理念を唱和している。又、ユニット毎の理念を作成し、こちらも毎日唱和を行っている。	ユニット理念は年度末にケアを振り返りながら、職員で話し合っ決めていく。スタッフルームに法人理念とともに掲示し、毎日の昼礼時に唱和することで意識づけを行い、理念を実践に活かせるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行われている地域の奉仕活動には毎回参加。又、令和5年7月に地域の方々をお呼びして夏祭りを開催。よさこいやフラダンスのボランティアの方々にも参加いただき盛大に開催することができた。	町内会に加入し、地域の奉仕活動には職員が参加している。掲示板で地域に向けて情報を発信している。ホームの夏祭りには地域住民や高校生のボランティアの参加があり、よさこいやフラダンスなどで盛り上がった。参加希望者が多く、申し込みの半数をお断りする程であった。地域住民を対象にした「コスモスカフェ」も昨年夏から再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和5年8月より認知症カフェを再開。当初は数名の参加であったが、最近ではカフェへの参加のみならず、認知症についての相談をしたいとの話もいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年5月より施設に集まったの運営推進会議を再開。顔を合わせての会議を行う事で、施設の現状、課題、地域の方々からの意見が出しやすいつのお言葉を頂いている。又、令和5年9月には避難訓練の見学も行っている。	メンバーは町内会長、区長、地域包括職員、社協職員、町職員で隣の同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。メンバーからは「コスモスカフェ」の運営などについて活発に意見が出されている。昨年の運営推進会議では避難訓練の様子をメンバーに見てもらい感想をもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ都度担当者の参加をいただいていると共に、必要時に電話連絡や直接市町村へ出向き、協力体制を築いている。	地域包括職員、社協職員とは運営推進会議以外にもコロナ対策などの情報を共有し、連携を図っている。保護課とは介護計画作成時などに相談している。高齢支援課には毎週顔を出すなど、相談しやすい関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止マニュアルを用いての勉強会を実施。又、3ヵ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、ケアの適性の見定めを行っている。	身体拘束の適正化等の指針があり、玄関に掲示している。委員会は3ヶ月に1回開催し、「検討シート」を用い不適切なケアや言葉遣いの事例検討を行い、定例会で職員に周知している。玄関は防犯上センサーを設置し、施錠は21時から翌6時までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止マニュアルを用いての勉強会を実施。又、虐待になりえるような案件があれば、都度ミーティングを行い、虐待防止に努めている。	定期的に虐待防止の研修を行っている。研修では虐待防止マニュアルで再確認したり、ヒヤリハットの事例検討を行っている。職員の声かけなどで気になった時は、その場で管理者が指導したり職員同士でも互いに注意し合える関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回権利擁護マニュアルを用いての勉強会を実施。又、成年後見制度についても、資料を用いての勉強会の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除についてはご家族様同席のもと説明の機会を設けている。又、契約に改定があれば、文章での通達を行うと共に、質問があれば都度連絡をいただいた上で、説明、理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会を行う際に現状を伝え、意見や要望を都度うかがっている。又、ケアに変更があれば、計画作成担当者よりご家族様へ電話連絡し意見をうかがう。計画作成担当者は電話連絡した際に、管理者はじめ、ユニットへの周知、反映を行っている。	家族には、毎月「コスモス松島通信」を発行し、入居者の様子や職員紹介を写真入りで報告している。面会は予約制で陰圧室で行っている。予約なしの来訪にもテラスに席を設けるなど、面会できるよう取り組み、喜ばれている。計画作成担当者は、ケアプラン作成時に入居者の体調に変化等があれば家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を実施し、運営に関する職員の意見を聴取している。又、困ったことがあれば、都度管理者へ報告、反映できるよう、各ユニットに、副管理者やリーダーを配している。	毎月、役員や所長が参加する定例会で、管理者が職員から集約した意見や要望を議題にし検討している。昨年導入した「週休3日制」について問題点がないかなど、検討し改善に繋げている。年2回、職員面談を行っており、振り返りやキャリアパスに沿って本人の希望を聞き、目標設定し人材育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を用いて、外部研修や本部での研修の機会を設け、必要な知識の習得ややりがい、向上心を持って働けるよう配慮している。又、週休3日制度を設け、個々の希望のもと、労働時間と休暇のメリハリに配している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、職員は目標設定を行い、自身に必要な知識や受けてみたい研修を個人で設定。管理者はこれに応じた研修へ参加できるよう、申し込み、シフトの調整を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や本部に集まったの内部研修の機会を設けて、他施設職員との交流の機会としている。又、管理者が定期的に地域の会議の出席し、情報交換に機会としている。	町の地域包括ケア会議にはリモートで参加し情報交流している。隣接する同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で研修を行っている。地域の他事業所のグループホームとも交流をしている。かかりつけの診療所医師から認知症の初期集中支援についてなど、話を聞く機会を設けている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査を実施し、不安や要望を聴取する。入所判定会議を経て、計画作成担当者がご本人様の要望をケアプランに反映させると共に、ユニット職員は入居後にご本人様との交流の機会を多く設けて、安心した生活を送れるよう情報の共有を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にてご家族様が困っていること、不安なことを聴取。都度助言や必要に応じた提案を行い、関係づくりを行っている。又、必要なケアがあれば、都度連絡をとって不安の改善に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で、必要とされるサービスがあれば都度助言や提案を行っている。又、入居判定会議の際に他のサービスが必要と判断されれば、そちらのサービスをお勧めすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を促し、個々の能力を職員が判断しながら、出来ることは積極的に参加いただいている。又、共通して行う事ができやすい、歌や体操の機会を定期的実施し、入居者様同士の関係づくりを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を設けて、ご本人様とご家族様の絆作りを行っている。又、誕生日等にご家族様よりプレゼントがあれば、その時の様子を定期的にご家族様に送っているお手紙に様子を記載、報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時期に合わせて、その時に行ったであろう場所に、町内を中心として出向き、馴染みの関係が途切れないようにしている。又、その際に馴染みの人があれば、そこで会話できる環境を整えている。	近隣からの入居者が多く、馴染みの店に買い物に行ったり、通院時には友人と挨拶を交わしている。初詣には近くの神社に参拝に行くなど、入居前の習慣が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの考えや特徴、経験に合わせて席の配置を考慮し、関係づくりが行いやすい環境作りに配慮している。又、関係づくりが得意ではない入居者様へは、職員が声を掛ける機会を多く設けて、孤立しない生活を送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においてもご家族様からの相談があれば、都度対応している。又、関係性を断ち切らないよう、契約終了後であっても、ご家族様に認知症カフェへの参加をいただいている等、関係性の継続、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人にケア担当者を割り当て、担当者を中心として、その方の状況を把握したり、希望の聴取を行っている。聴取された内容は、毎月行われるケアカンファレンスにて報告し、検討を行っている。	リビングでテレビを見ながら、居室で衣替えや掃除しながらなど、職員と共に過ごす会話の中から思いを把握するよう努めている。深夜に起きてきて職員と談話をする入居者もいる。職員はそうして得た情報を記録に残し、共有している。思いや意向の把握が困難な入居者からは、今までの生活歴や家族から得た情報を参考にしている。また、日々の何気ない動作や仕草からも思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に今までの生活状況やサービス利用の経過などの情報を共有しケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で得た情報を個別記録に残し情報の共有を行っている。又、カンファレンスで話し合い職員の得た情報の集約、現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日サービス内容の評価を行い、日々の情報を共有しつつ、毎月のカンファレンス会議で話し合いケアに繋げている。ご本人や家族様意向、主治医との連携を図りより良い介護計画作成となるよう努めている。	毎月、サービス内容や本人の状態変化などについて評価を行っている。介護計画作成時には家族や医師、常勤の看護師からの意見も反映させている。家族には面会時や電話で説明し、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりで得た情報はここの記録に残すと共に、毎月行うカンファレンスにて情報を共有しながらケアプランの見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の必要物品の代理購入や買い物、必要に応じた通院等、その都度発生するニーズに応じられるよう柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の流行により、地域資源の把握は行っているものの、人込みへの外出は極力避けており、十分とは言えない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点でご本人様、ご家族様と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。 又、専門的な受診が必要な場合は、主治医の指示に従い管理者及び計画作成担当者が家族と相談し対応している。	希望するかかりつけ医を受診することができるが、協力医療機関をかかりつけ医とする人が多く、月2回の訪問診療を受けている。内科以外の通院は常勤の看護師や職員が同行している。受診後は家族に連絡し、受診結果を説明している。介護計画更新時の通院には計画作成担当者も同行している。歯科は受診が必要な時に訪問してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が入居者様の状態を報し、適切なケアや医療を受けられるよう協働に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	適切な情報提供ができるよう介護サマリーを用いて日頃の様子や経過の情報提供を行っている。又、病院の医療連携室とも情報の共有を図り、状況に合わせた対応に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が認められた際には、主治医の主導のもと、ご家族様への説明を行う。その際に事業所として行えること、方針を伝えている。終末期のケアは行っていない。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に説明し、現在は看取りを行っていないことや、ホームでできることを伝えている。重度化した時は医師から家族に説明があり、入院や他の施設への入所について選択肢を示し、相談しながら連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応マニュアルを用いての勉強会を実施。又、急変時に備えて救急車の要請訓練も定期的に行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。また、運営推進会議にて地域の方々のご意見をいただき、協力体制を築いている。	火災、風水害、地震、津波災害マニュアルが作成されている。ハザードマップも掲示されている。年2回、避難訓練を実施し内1回は夜間想定で行っている。災害時は隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の2階に垂直避難し、非常食や備品も3日分保管されている。設備点検は、年2回業者が行っている。新型コロナウイルス感染症予防対策として職員は出勤前に抗原検査を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護、プライバシー、認知症に関する勉強会をマニュアルを用いて定期的に開催し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	接遇、プライバシー保護の研修を行っている。トイレへの誘導時は羞恥心に配慮し小声でさりげなく行い、居室へ入室する時はノックと声がけで確認している。基本、呼び名は苗字か名前に「さん」を付けて呼んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声を掛ける際に思いや考えを引き出し、必要に応じては選択肢を与え、自己決定ができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の特徴を把握し、その方に似合ったペースにて生活できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服等、できる限り自身で選定していただき、身だしなみを整えられるよう配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日を含む行事食を取り入れ、一緒にメニューを考え、提供を行っている。又、食器洗いや食器拭きを可能な限り入居者様に行ってもらっている。	朝食の他、毎食のご飯、みそ汁はホームで手作りし、おかずは業者のチルド食を利用している。入居者には野菜を切るなどの下ごしらえや皿拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。節分には恵方巻と一緒に手作りし、みんなで楽しんだ。夏野菜を育て収穫後には、食材に取り入れたり漬物にしており、入居者には好評である。大みそかにはお寿司を提供したり、正月にはお餅風の介護食でお雑煮を提供し気分を味わってもらった。誕生日にはリクエストに応えた食事を用意し、ケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完調品を使用し、栄養のバランスがとれた食事を提供。又、医師による指導があった際にはその方に合わせた量で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。汚れが目立つ際には、必要に応じて職員が支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケアカルテや紙の書式を使って排尿パターンの把握に努めている。又、個々の残存能力に配慮しながら、介助の程度を決め、統一したケアに努めている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの状態やタイミングを見ながら声がけや誘導し、トイレで排泄できるようにしている。夜間は睡眠を重視し、無理に起こさず大きめのパッドや状態に合わせ支援している。便秘対策としては水分量をチェックし、水分補給の声がけをしている。看護師に相談し、医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の習慣に軽体操を加えて、便秘の解消に努めている。又、水分補給がどの程度行っているか、ケアカルテや紙書式を使って把握し、補給量の把握に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な曜日は決定しているものの、その日の状況やご本人様の意思に合わせて曜日、日にちの交換を行っている。	基本は週2・3回、入浴支援をしている。湯温も一人ひとりの好みに合わせ、入浴剤や近隣住民から届く柚子などで柚子湯を楽しんだりしている。入居者の状態に応じて危険のないよう、リフト浴やシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の習慣を聞き取りやケアカルテのデータから導き出し、適時適当な休息が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に内服薬は職員管理となっている。服薬内容は毎月受薬する際に服薬表を薬剤師より受け取り、職員がいつでも確認できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に合わせて、家事手伝いやレクリエーションの参加方法を変えている。又、行事は季節の合わせたものを提供して、月に1回程度定期的に楽しみな機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症や季節性インフルエンザの流行により積極的な外出には至っていない。しかしながら、コロナウイルス感染症についてはR5.5の5類移行以後、徐々に面会の再開を行っている。	コロナ等感染症予防対策で計画通りの外出ができていない。天気の良い日は、車いすの人も近くを散歩したり、ウッドデッキやベンチに座って、ひなたぼっこを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員管理となっている。しかしながら、ご本人様に欲しいものがあれば、所持金額に合わせて、自由に購入を行うことが出来るように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様からの連絡はいつでもご本人様に繋ぐことが可能としている。又、ご本人様から自宅に連絡がしたいとの要望があれば、ご家族様確認のもとで、連絡がとれるよう配慮している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ季節を感じる事ができるような作品を入居者様と一緒に手作りし掲示している。又、足元が暗くならないように、明るめの蛍光灯を使用し、入居者様が見やすい空間作りに努めている。	リビングは整理整頓されており、時計、日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けられている。壁には季節の飾り付けやイベントの写真が掲示されている。食事のメニューを職員がボードに書いており、入居者は楽しみにしている。リビングから出入りできるウッドデッキがあり、ひなたぼっこができる。小上がりの上がり口に座って休む人もいる。温・湿度は職員が管理し、換気は午前と午後に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるようお互いの性格に配慮しながら席の位置を決めている。又、ユニットには小上がりがあることから、入居者様が思い思いに利用し、プライベートの空間として利用することもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使いやすいよう、定期的に物の配置を再検討し、過ごしやすい空間作りに努めている。又、使い慣れたもの、慣れ親しんだものを施設の持ち込んで設置している。	エアコン、ベッド、クローゼット、カーテンが設置されている。ベッドの位置は本人の動線や希望で配置している。自宅からはテレビ、テーブル、椅子など馴染みのものが持ち込まれている。壁には家族の写真などが飾られている。居室担当者と一緒に衣替えや掃除をする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには扉にプレートを張り分かりやすく表記している。又、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		